

上部消化管内視鏡検査 説明・同意書

1. 上部消化管内視鏡検査とは

1) 概要

上部消化管内視鏡検査は、内視鏡(ビデオスコープ)を使って食道・胃・十二指腸といった上部消化管を内側から直接観察できる検査で、一般的に「胃カメラ検査」と呼ばれています。内視鏡スコープを口もしくは鼻から挿入し、明るい光で照らしながら、病変がないかどうか観察をします。食道や胃、十二指腸に病気が疑われる場合は、組織を一部採取する生検を行い顕微鏡で調べて病理診断を行うこともあります。組織を採取する際に、痛みはありません。

2) 必要性

胃痛や胸焼けなどの消化器症状がある場合に、その症状の原因となる病気の有無を調べ、病気が見つかった場合は内視鏡結果に基づいて治療法を選択します。

3) 方法

検査を十分に行うためには、胃を空っぽの状態にしなければなりません。そのため、検査前日の夕食は午後8時までに済ませ、以後は水分の摂取だけにして下さい。検査は、のどを麻酔した後、プラスチックのマウスピースを軽く口にくわえて行います。内視鏡が挿入されても呼吸はできますので、慌てずゆっくり呼吸をします。検査は、およそ10分から15分ぐらいで終わります。検査の後のはのどの麻酔がとれるまで30分ほどかかります。飲食は、のどの麻酔がとれ、飲み込む反射(嚥下反射)が正常に戻るまでお待ち下さい。検査後しばらくは、のどのヒリヒリする感じやお腹の張った感じが残ることがありますが、時間が経てばなくなりますのでご安心下さい。

4) 合併症、不具合(有害事象)

上部消化管内視鏡検査に伴う検査として、以下のものが挙げられます。このような危険をさせるように細心の注意を払い、万一生じた場合にも最善対処をしますが、事前に「絶対に」と言い切れないものとしてご理解下さい。

①使用する薬剤(咽頭麻酔剤・鎮痙剤・鎮静剤)によるアレルギーショック、低血圧、低血糖、不整脈など

・頻度: 非常に稀

起こったとしても一過性のものがほとんどですが、ごく稀に重篤な状態になる場合もあるため、これまでに使用された薬剤で具合が悪くなった経験がある場合は、必ず事前に申し出て下さい。また、使用薬剤の影響を考慮し、検査当日の車やバイクの運転はおやめ下さい。

上部消化管内視鏡検査 説明・同意書

②咽頭の損傷・穿孔

・頻度:約0.003%

のどの奥から食道へ入る入口部は壁が薄くなっているところがあり、そこに内視鏡が引っかかると傷がついたり、穴が開いたりすること(穿孔)があります。検査後に飲み込むときに強い痛み(嚥下痛)が続く場合には病院へご連絡下さい。

③出血

・頻度:約0.009%

生検検査のために粘膜を採取した際は、少量の出血が起こります。ほとんどの出血は自然に止まりますが、稀に多量の出血が生じることがあり、その場合は緊急に内視鏡で止血処置が必要になります。吐血したり冷や汗をかいたり、検査翌日に真っ黒な便が出たときはすぐにご連絡を下さい。

④誤嚥性肺炎

・頻度:非常に稀

内視鏡検査の際、喉に麻酔をおこなうため、飲み込む(嚥下)反射が鈍くなります。このため、誤嚥といって誤って飲み込んだものが気管に入り、ひどい場合には肺炎に至ることがあります。

⑤顎関節の脱臼・歯の損傷

・頻度:非常に稀

検査の際、強い力でマウスピースを噛みしめることにより、顎の関節が外れたり、歯の損傷を起こしたりすることがあります。

⑥鼻出血

・頻度:約1%

経鼻内視鏡を施行した場合、スコープ挿入時や操作時の刺激により、鼻の粘膜から出血をすることがあります。他の偶発症に比べるとやや頻度は高いですが、ごく軽度の鼻出血が大部分であり、自然に止血するものがほとんどです。

2.上部消化管内視鏡検査を行うことによる利益と不利

上部消化管を検査する方法として、バリウム検査(上部消化管造影検査)があります。造影検査により病気の存在や拡がりを診断することが可能で、病気によってはバリウム検査のほうが病気の拡がりを評価するのに有効な場合もあります。しかし、とても小さな病気の発見や、より精密な検査という点では内視鏡検査が優れています。また、造影検査では組織の採取ができないため、病気が見つかった際は改めて内視鏡検査が必要となります。質の高い診断のみならず、組織採取まで可能である点が内視鏡検査の最大のメリットです。

3.その他(追記事項)

★検査当日は、この用紙を必ずご持参ください★

胃内視鏡検査を受けられる方へ

検査当日は、開始予定の30分前までに受付を済ませ、自動血圧計で血圧を測定後この用紙を内視鏡検査室に提出してください。

口もしくは鼻から細いカメラを挿入し、食道や胃、十二指腸を直接カメラで見る検査です。



1. 検査前のご注意

- 検査前日の夕食は午後8時までにとってください。食物繊維や脂肪分の少ない消化のよいものをとるようにしてください。お酒は飲まないでください。
- 検査当日は、朝絶食してください。（検査が終わるまで何も食べないでください。）水とお茶は飲んでもかまいません。（コーヒー、ジュース、牛乳、飴等は口にしないでください。）
- 薬を服用されている方は、検査前日は普段どおり服用してください。検査当日の朝は飲まないようにしてください。糖尿病の薬は絶対に内服しないでください。ただし、心臓病や血圧の薬は服用していただいてかまいません。
- 検査で鎮静剤を使用することがあります。また使用する薬の副作用によって目の反応が鈍くなることがありますので、車や自転車等を運転してのご来院は避けてください。
- メガネ、義歯は外しておいてください。女性の方は口紅を落としておいてください。

2. 検査後のご注意

- 鎮静剤の効果がある程度とれるまで（1時間程度）、病院で休憩してください。また鎮静剤の影響は終日続きますので、検査当日の車の運転、機械の操作、飲酒、重要な決定は絶対にしないでください。
- 検査に使用した麻酔で喉がしびれたり腫れたりしますので、1時間は飲んだり食べたりしないでください。喉の違和感や痛みが続く場合は、来院していただくか、下記までご連絡をください。

その他、ご不明な点がございましたら遠慮なくご相談ください。

医療法人社団美里会 瀬谷ふたつ橋病院
〒246-0031 横浜市瀬谷区瀬谷1-29-1
TEL: 045-303-1151